

Q: 大動脈解離ってどんな病気ですか？

A: つい先日、落語家の笑福亭笑瓶さんが急性大動脈解離で亡くなりました。突然の訃報で皆さんも驚かれたと思います。この大動脈解離とはどのような病気なのでしょうか。

大動脈は心臓から直接続く動脈であり、心臓から上向きに走行し（上行大動脈）、喉元のあたりでUターンして下向きに降りていきます（下行大動脈）。大動脈解離は、大動脈の中膜に生じた亀裂から血流が偽腔内に流入し剥離する大動脈疾患の一つです。なかなか想像できないかもしれませんが、大動脈を皆さんがよく知っている水を撒く“ホース”やおでんなどで使われる“ちくわ”を思い浮かべてください。ホースやちくわの内側に傷がつき、その裂け目から血液が流れ込み、裂け目がどんどん大きくなっていくようなイメージです。裂けて弱くなった壁が破れたり（大動脈破裂）、裂け目が血管の枝を詰まらせたりします。上行大動脈に起きる大動脈解離は心臓に近いため種々の合併症の原因となり、発症直後から生命への危険が極めて高くなるため緊急手術が必要になります。

大動脈解離は女性に比べ男性で約2～3倍多くみられます。Marfan 症候群などの遺伝性疾患の方は、頻度が高いと言われていますが、一般的の方でも60歳以上で発症頻度が高くなり、高血圧と密接に関連しています。発症のピークは70～80歳代にみられます

大動脈解離の症状としては、大動脈が裂ける際に生じる、突然の急激な胸背部の痛みです。その他にも脳の血流が阻害されて失神や脳梗塞による手足の麻痺、心臓の血管（冠動脈）の血流が阻害されて心筋梗塞を発症することもあります。また大動脈弁逆流による心不全症状や腹部臓器や下肢の虚血（痛みを伴う）を認めることもあります。予兆となる症状は無いことが多く、大動脈解離が起きた後は数秒で解離が進行しますので突然発症します。普段経験したことのない胸背部痛があれば至急受診することをお勧めします。特に高血圧の処方治療を受けている方で、このような症状が生じた場合は注意が必要です。